

令和３年度 施設長会（１２月） 会議資料

（川崎市社会福祉協議会 施設部会 老人福祉施設協議会）

— 議 題 —

1 各プロジェクト委員会の進捗状況について …資料１・別添資料１

2 安全対策担当者養成研修（安全対策体制加算対応）について …資料２

3 施設長会での情報交換について …別添資料２

「本日のテーマ：科学的介護情報システム「LIFE」について」※全議題終了後に行います。

4 施設部会（社会福祉施設出張講座等）の報告について …資料３・別添資料３

5 神奈川県社会福祉協議会施設部会老人福祉施設協議会

（１）課題別プロジェクト会議（災害・人材確保・介護報酬改定）について

（２）第２０回かながわ高齢者福祉研究大会について

6 その他

・関東ブロック老人福祉施設連絡協議会会費の納入について

・食料支援かわさき＋ひとり親家庭応援について …別添資料４

・人材バンク、総合研修センターより …別添資料５・６

各プロジェクト委員会の進捗状況について

1 災害プロジェクト委員会

(1) 委員会等実施状況

第3回 / 11月24日（木）10時～（オンライン）

※委員会内で、応援職員シミュレーション訓練の動画視聴を行う

(2) 報告・協議概要

①施設間連携及び情報共有について

「災害時高齢者・障害者施設等情報共有システム（通称：E-WELFISS）を用いた情報伝達訓練に伴う情報交換会（9/2）」での各グループの意見について確認

②災害に関する研修会の開催について（別紙参照）

③応援職員の受入れマニュアル（ひな形）の作成について（別紙参照）

- ・昨年度から引き続き災害プロジェクト委員、かつ施設が異動になっていない委員の施設（すえなが、生田まほろば）を想定し、実際に他施設職員が自施設に応援に来たことを想定して、受入れマニュアル（ひな形）を活用したシミュレーション訓練をオンラインで行う（動画視聴）（想定）

◎すえなが【福祉避難所（二次避難所）の運営に応援職員が来た】

◎生田まほろば【自施設の職員のフォローに応援職員が来た】

他施設からの応援職員

上記2施設以外の災害プロジェクト委員会の委員が応援職員として想定

【委員等より】

- ・実際はもっと被害状況が複雑だと思うが、応援職員をどう受け入れていくかは本部機能がいかに機能するかだと思った。また、どう受入れをしていくかの判断を誰がするのか、施設内で何名がその役割を担えるのかが重要だと感じた。
- ・施設の直接被害がない場合にも今回のように施設職員が被災してしまったり、あるいは交通機関がマヒしてしまい、職員が来れないということも考えられるかもしれない。
- ・応援職員がケガしてしまった場合の施設同士での負担や身分保証を取り決めている規定や基準等はあったりするのか。貴重品の紛失や施設に行く間のケガ等も含めてあったりするのか。 等

【みやうち より】

- ・導入時に施設案内を丁寧にされていましたが、まず施設を見ていただき、施設の全体像をつかんで頂くことは大事だと思いました。

被災し、余裕がない中では、すぐに具体業務や個々の利用者対応からの説明に入りがちになるところだと思いますが、そうした場合、応援職員は部分的な物しか見えず、不安が先に立ってしまうと思います。努めて施設の概要から丁寧に説明する事が大切だと改めて感じました。

- ・応援職員からの連絡方法について、内線系統（PHS、固定電話）、職員への声掛け、トランシーバーと段階的に複数の用意があることを伝えていました。

「わからないことがあれば近くにいる職員へ…」となりがちですが、被災の混乱時、現実的には職員に聞き辛い状況があると思われますし、忤度なく聞ける環境が大事であると思います。

また、そうした配慮、必要性に対する理解があるという施設の姿勢が伝わり、安心感につながると思いました。

- ・事故について、経験のある職員でも、なれない環境、初対面の利用者に対してリスクは高いと不安を感じていると思います。事故の際の対応について、承知のこととはいえ施設からのフォロー体制含め説明をすることは必要であると思いました。

- ・応援職員に対する業務の配分について、介護と復旧について、「シフトの中で、平等にします」といった説明がありました。イレギュラーはあってもそうした留意とアナウンスは大事だと思いました。例えば同じように応援に来たのに、他の応援職員に比べ、復旧支援の比重が高かったりすると、プライドにもかかわると思います。

また、状況によると思いますが、できれば介護と復旧作業の応援人員は分けられた方が良いと思います。復旧ボランティアも多く駆けつけてくださる可能性もあり、ケアにあたる応援職員については、介護業務に専念していただく方が、それぞれ応援職員をマネジメントする担当も明確となり、全体の調整がスムーズであると思います。

また、感染症対策も同時に検討しなければならない状況においては、それぞれの活動エリアを限定することは有用かと思います。

- みやうちは、令和元年の被災において、多くのボランティア様はじめ、皆様の多大なるご支援を頂き復旧することができました。応援に駆け付けてくださった方々が大変な復旧作業を担ってくださることで、幸いケアにあたる人員については、自施設の職員にて対応ができました。しかし、今後起こりうる災害を考えると、ケア業務に対する応援も想定する必要性があり、そうした場合のシミュレーションや、福祉避難所の開設に向け、準備をしていく上で大変参考になるものでした。ありがとうございました。

④施設間連携及び情報共有について（川崎市内施設での施設間連携） ※別紙参照

・令和元年東日本台風

実際に川崎市内で被害があったが、各施設の被害状況がよく分からず、
応援職員を派遣しても良いものなのか、どれくらいの支援が必要なのかわからなかった。
また、大勢の人が駆けつけてしまっても受け入れる側の負担になってしまうのではないかと。

・新型コロナウイルス感染症

コロナが災害と言えるかどうか分からないが、市内施設間で何か物資や人的支援が出来る
仕組みがあった方が良かったのではないかと。

ただ、一方で感染のリスク等もあり、派遣された職員が安心して活動出来るためにも、
一定の協定等があった方が良いのではないかと。

・情報交換会での意見より（一部抜粋）

災害が起きてからではなく、事前に市内老人福祉施設で協定を結び、災害時には協力できる
体制づくりや協定が必要なのではないかと。

・この 2 年間、コロナにより近隣施設との関係が疎遠になっており、気軽に相談や情報共有できない環境になっている。今回の情報交換会のように関わりを継続的に持つ機会を作り関係性を構築する必要があると感じる。

【委員等より】

・規約や条例に身分保障やケガ等の対応について記載はあった方が良いと思うが、あまりガチガチに決めてしまうと、いざという時に動きづらくなってしまふ部分があるのではないかと。

・細かい部分まで全て決めてからでは、それこそ災害が来てしまうかもしれない。ゆるやかにでも先日の情報交換会での意見にもあったように、情報共有できる場の継続をしても良いのでは。

・災害時の施設間連携については重要だと思い、こういった規約があると施設間連携のきっかけになると思う。

・施設間連携で応援職員を受け入れた際に、施設内での受け入れスペースや宿泊スペースの確保が難しい場合には、外部のホテル等の確保も課題になってくるのではないかと。

・応援職員を派遣した場合、された場合の費用については、今後検討していかなければならないと思う。

・区単位として今後考えていくのか、実際には区をまたいで近隣施設がある場所の施設もある。情報共有を考える場と実際の連携する場面を考慮して進めていく必要がある。

・施設間連携と情報共有は繋がっている部分もあると思うが、情報共有システム（通称：E-WELFISS）に応援職員の需要と供給がわかれば、スムーズに職員応援が出来るのではないかと考えた。

・多摩区は多摩川沿いにある施設もあり、洪水のハザードマップでも浸水エリアに入っているところもあるので、水害になった時には区外の施設の応援が必要になるのではないかと考えたので、このような仕組みはあった方が良いと思う。

- ・BCP を策定していく中でやはり人員ということは課題になるので、こういった仕組み、協定があることで施設も、実際に活動する応援職員も安心出来るのではないかな。

→ 川崎市内の施設間連携を進めていくため、他都市の協定や規約を参考に川崎市独自のものを策定していく。その際には既に策定している他都市だけではなく、保険会社、社会保険労務士等の専門家にも意見を伺うようにする。

また、協定を待っている間に災害は起こってしまうので、区単位でのゆるやかにでも情報共有、情報交換の場を進めるなど、災害が起きる前に出来ることを少しずつでも取り組んでいくと良いのではないかな。(取り組んでいる区もあるかも)

第4回実行委員会： 1月25日（火）10時～ 会場：エポック中原・オンライン

報告書 災害に関する研修会

「長野県の台風 19 号災害の経験から～被災施設や地域への支援について考える～」

1 日時

令和 3 年 12 月 2 日（木） 15 時 30 分から 17 時

2 方法

オンライン

3 主催

（社福）川崎市社会福祉協議会 施設部会 老人福祉施設協議会災害プロジェクト委員会

4 共催

（社福）川崎市社会福祉協議会 福祉部 ボランティア活動振興センター

5 協力

川崎市老人福祉施設事業協会

6 参加者

61 件 ※内訳は下記参照

内訳				
老人分野 38	保育分野 14	障害分野 4	児童分野 1	その他 4

7 内容

(1) 講話

社会福祉法人賛育会 前事務長 松村隆 氏

長野県社会福祉協議会 総務企画部企画グループ 山崎博之 氏

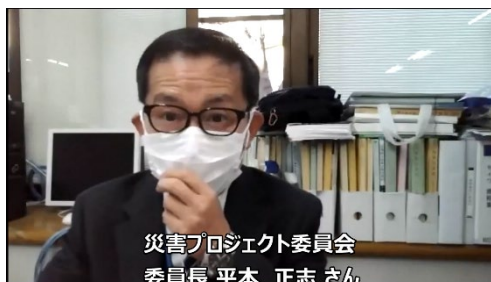
①発災時に命を守る（発災前・発災時の避難行動）

②復旧・復興期に施設と事業を回復させる

③復旧・復興期に地域や事業所間のつながりを活かす 他

(2) 質疑応答

8 当日の様子



9 アンケート結果

回収数：23（回収率38%）

1. 今回の研修会はいかがでしたか？【研修の理解度・満足度】

理解度				
とても理解できた 14	理解できた 9	普通 0	やや理解できない 0	理解できない 0
満足度				
大変満足した 15	満足した 6	普通 2	やや不満足 0	不満足 0

2. BCPの策定状況について教えてください。

既に策定し、訓練（検証）を行っている	3
策定したが、訓練（検証）までは行えていない	10
これから策定する	9
策定する予定はない	0
その他 ・水害を想定した訓練は行っていないので、早急に計画したいと思います。	1

3. 今回の研修会についてのご意見及びご感想をご記入ください。

- ・実際に被災した施設の生の声を聞いて、注意すべき事項について認識ができ役に立った。
- ・生の体験を聞かせていただき、大変参考となった。自施設のBCP作成に四苦八苦している中、地域のBCPなど全く頭になかった。地域包括含め考えていかなければならない。DMATやヒューマなど多くの団体の援助がなければ避難含めスムーズにはいかなかったと思われる。川崎市での被災でも同様の支援が受けられるのだろうか？行政の対応にも限界があり、近隣施設等の日ごろからの関係性が重要となおさら感じられました。被災後に変更があったBCPの内容や訓練方法、施設設備面等あればお聞きしたかった。
- ・避難準備指示発令（高齢者等避難 警戒レベル3）からの調整
被災時からの事業再開の方針や雇用調整等。特に火災保険の水害保険の見直し。
その他のBCP作成に向けて（洪水のBCPはできているが）貴重な研修となりました。
- ・実際の写真等のデータが多く、リアルに被災の状況を体感することができ、自施設と対比しながら講義を受けることができ有意義だった。今後の取り組みの参考にしたい。
- ・被災に伴う具体的な金銭の流れ、保険の留意点等、非常に参考になった。
- ・生の声を聴けることで、より現実的になりました。今後のBCP作成に向けてとても参考になりました。

- ・松村様の講話が身に染みました。

事業継続をいかに考えるか、そして職員さんの雇用継続についても参考になります。

置かれた立場がそれぞれの中、困難を有難い事にかえて、生き抜くために行動し続けることを学ばせていただきました。ありがとうございます。

- ・実体験でのお話であったので、非常にわかりやすく細かな部分まで示唆に富む内容でした。災害は自分たちの身にも起こるもの、という感覚を忘れず、具体的な避難等について検討していきたい。

- ・BCPを作成しなければと思いつつ、まだ着手できていなかったもので、策定する上で、どのようなことを想定しておかなければいけないのか、参考になるお話がたくさん聞けたので良かったです。ありがとうございました。

- ・被災時の状況から復旧までの実際の動き方や課題等、詳細ご説明いただき、イメージしながら理解することができました。貴重な機会をありがとうございます。

当施設は高台にありますため、水害の想定はしておりませんでした。他の災害で被災したとしても同様の想定でご利用者や職員への復旧までの優先順位や食事提供等、改めて BCP の見直しや訓練に生かすポイントを整理してまいります。

- ・生々しい写真も含め、実体験を聴くことで、改めて危機意識が高まった。
- ・被災された実体験からの発表でしたので、一つひとつのエピソードが生々しく、とても考えさせられました。

- ・職員の方々の動きが分かり、大変さが伝わってきました。

- ・地域との連携や、被災時の実務について具体例を聞くことが出来たので勉強になりました。参考にしたいと思います。

- ・施設内だけでな地域の BCP が必要であること勉強になりました。

- ・地域との連携や、被災時の実務について具体例を聞くことが出来たので勉強になりました。施設内で他の職員とも共有させていただきたく、後日の動画配信も希望いたします。

- ・これまでは自施設のみを考えていたが、同じ地域にある他の施設や地域で暮らしている地域の方々にも目を向けていけないと思いました。

「地域の復興なくして施設の復興はない」という言葉は素敵だなと思いました。

- ・研修を受けながら台風 19 号の時のこと、改めて被災した人と被災していない人の差について考えさせられました。

- ・入所施設と通所施設の違い、当施設は通所施設のため被災した時間帯により対応が異なると思いますが、実体験に基づくお話であり、集団避難が必要になった場合は避難所に行くのか、どこか違う施設に行けるのか、色々と考えさせられました。

- ・防災ボラからの参加で恐縮ですが、決壊前の行動、決壊時、決壊後の動き、翌日から復興に向けての行動等詳しく説明していただき、とても勉強になりました。頂きまし資料もわかりやすく、詳しく作成してあり、とても勉強になりました。多摩川もいつ大雨等により決壊するか、

可能性は無きにしも非ずです。近年では想定外が起こる自然災害が多いので、大げさに行動し被害を小さく防ぐ事、避難をためらわず早めに行動を考えると、高齢者の移動（避難）を早めに安全な場所へ避難させる事などの重要性を感じました。体育館よりも福祉施設の方が便利で安全な話や、避難所の優先的な電気の通電、DWAT の長期に渡る活動の重要性、他など勉強になりました。今後は参加された皆さんを中心に社協さんの登録団体と有事の際について話し合えればと思いました。

4. 次回以降の研修会で取り上げたいテーマがございましたら、希望されるテーマ及び理由、施設での現状等をご記入ください。（例）被災した際その他都市職員の受入れ、BCP（事業継続計画）の策定、既存のマニュアルを用いた図上訓練、福祉避難所 等々

（過去の体験、経験）

- ・今回は水害の話でしたが、地震を経験した施設の生の声が聞けたら良いと思いました。
- ・地震で被災した施設のお話を伺う機会があれば参加したいと思います。

（地域、施設間連携）

- ・災害に強い地域、施設づくり、応援職員の受け入れ方法・受け入れのために最低限準備しておかなければならないもの等
- ・日頃からの地域との連携について（具体的な取組事例など）
地域性、住民層など川崎市と似ている都市があると良いのですが）
- ・同じ地域にある他の施設との普段からの顔合わせや施設連携について、災害前から出来ることに少しずつ取り組んでいきたい。
- ・いざ災害になってから協力できる部分もあるかと思いますが、やはり普段からの関係性が有事の際に繋がってくるのではないかと思います。

（訓練）

- ・水害に関する図上訓練及び避難訓練
- ・貴重な研修を企画してくださりありがとうございます。福祉避難所の運営訓練は自前ではなかなか手が付かないため、研修テーマとしては感心はあります。

（その他）

- ・次回も参加のお誘いをいただければと思います。

【災害に関する研修会】

長野県の台風 19 号災害の経験から ～被災施設や地域への支援について考える～

動画配信

期 間

12 月 16 日～1 月 16 日

内 容

0 : 00～ 開会・挨拶・講師紹介

7 : 20～ 長野県社会福祉協議会 総務企画部企画グループ 山崎博之 氏

31 : 00～ 社会福祉法人賛育会 前事務長 松村隆 氏

①発災時に命を守る（発災前・発災時の避難行動）

②復旧・復興期に施設と事業を回復させる

③復旧・復興期に地域や事業所間のつながりを活かす 他

1 : 28 : 15～ 質疑応答・事務連絡・閉会

申 込

下記担当まで電話またはメールによりお申込みください。
視聴用の URL 等を送付させていただきます。

【お申込み・お問合せ先】

社会福祉法人川崎市社会福祉協議会 福祉部 施設・団体事業推進課 担当：金子、白倉

電 話：044-739-8717 FAX：044-739-8737

メール：shisetsu-dantai@cs-w-kawasaki.or.jp

共 催：川崎市社会福祉協議会 福祉部 ボランティア活動振興センター

協 力（動画配信）：川崎市老人福祉施設事業協会

仮称「応援職員の受入れマニュアル（ひな形）」の作成について

ステップ①

熊本地震の際に現地施設が作成したマニュアル（ひな形）を基に雛形を作成し、ひな形作成にあたり、災害プロジェクト委員会の委員で自施設に当てはめて作成する。

ステップ②

自施設に当てはめて作成したマニュアル（ひな形）を再度災害プロジェクト委員会で検討、シミュレーション訓練を行う。

また、マニュアル（ひな形）作成にあたっては、被災地へ派遣されている職員や東日本台風で多くの職員・ボランティア等が駆けつけた特養みやうちの意見を伺う。

ステップ③

各施設へマニュアル（ひな形）を配布する際には、どのように活用するかをわかりやすく伝える。

【具体的なやり方について（案）】

- ・昨年度から引き続き災害プロジェクト委員、かつ施設が異動になっていない委員の施設（すえなが、生田まほろば）を想定し、実際に（オンライン）他施設職員が自施設に応援に来たことを想定して、シミュレーション訓練を行う

【想定】

被災施設

①すえなが 【福祉避難所（二次避難所）の運営に応援職員が来た】

②生田まほろば【自施設の職員のフォローに応援職員が来た】 ※詳細は別紙参照

他施設からの応援職員

上記2施設以外の災害プロジェクト委員会の委員が応援職員として想定

※可能であれば、特養みやうちにもオブザーバー参加していただき、

令和元年度東日本台風の際の経験を教えていただく

「応援職員の受入れマニュアル（ひな形）」について

1 目的

災害時等には施設に対して、人的・物的資源などの支援・提供が行われるが、こうした応援に対して受入れ側の施設の準備が必ずしも十分とは言えない状況にある。

これまでも外部機関からの応援を活かす体制（受援体制）が整っていないため応援要請を断ってしまう、あるいは応援職員に具体的な指示を出すことができない等、応援職員を活用できない事例が多く見受けられる。

こうした状況を踏まえ、本マニュアル（ひな形）は、災害時等に駆けつけた応援職員に対して、まず始めのオリエンテーションとして伝える内容を過去の被災施設等から意見をいただき、整理したものである。

応援職員を迅速かつ的確に受け入れて情報共有や各種調整等を行いやすくするための一助になればと考えている。

2 背景

（東日本大震災の時に外部支援者を受け入れた施設のアンケートより抜粋）

○外部支援者の受入れにあたって課題となったことについて

→【回答数順】

- ・ 外部支援者に対してマニュアルがなかった
- ・ 外部支援者をコーディネートできる人材、受援体制がなかった
- ・ 外部支援者等を受け入れた場合の食事、宿泊場所の確保

○外部支援者にお願いした活動内容について

→【回答数順】

- ・ 福祉避難所が開設された場合の運営
- ・ 施設職員のフォロー（介助補助など）
- ・ 様々なところから運搬、配布される物資の整理



応援職員の受入れマニュアル（ひな形）

社会福祉法人川崎市社会福祉協議会 施設部会
老人福祉施設協議会 災害プロジェクト委員会
令和 年 月 日 作成

※本マニュアルは、あくまでも雛形であるため、各施設の避難計画や
BCP 等とあわせて加除訂正することを推奨します。

目 次

- 1 施設の概要と現状
- 2 福祉避難所（二次避難所）の開設状況
- 3 勤務時間・シフト
- 4 業務を行うにあたって
- 5 応援職員の生活インフラ等について
- 6 その他

1 施設の概要と現状

施設名	
理事長	
施設長	
職員構成	
平均介護度	
住所	
TEL	
FAX	
定員数	
建物構造	
設備	
運営母体	
メール	
URL	
FAX	
交通案内	

2 福祉避難所（二次避難所）の開設状況

開設年月日	
避難者数	
避難者の情報・ 状況（介護度等）	

3 勤務時間・シフト

日勤帯	時 分 ～ 時 分
夜勤帯	時 分 ～ 時 分

4 業務を行うにあたって

- (1) 業務（見守り・生活支援）について…1日の業務スケジュール、名札(目印)の着用等
- (2) 記録について…記録の作成方法、作成場所等
- (3) 物品購入について…避難所で必要な物品の購入方法等
- (4) 申し送りについて…日勤帯・夜勤帯間での申し送りの時間、場所等
- (5) 施設内の連絡について…内線電話の使用方法等
- (6) 避難者の服薬管理について…服薬者の情報、薬の管理方法等
- (7) 避難者の必要な介護と留意事項について…避難者の身体状況、支援方法等の情報
- (8) 避難者の夜間体調不良時の対応について…連絡の流れ等
- (9) 避難者の金銭管理について…必要により施設内金庫での保管等
- (10) 避難者のバイタル測定について…バイタル確認表への記入等
- (11) 避難者の外出について…外出時の手続き（外出届出の活用等）、タクシー連絡先等

5 応援職員の生活インフラ等について

- (1) 下駄箱について
- (2) トイレについて
- (3) 入浴について … 利用時間、場所等
- (4) 食事について … 時間、場所等
- (5) 休憩・宿泊スペースについて … 場所、使用方法等
- (6) 洗濯について … 場所、使用方法等
- (7) 移動手段(外出)について … 公用車の使用、夜間外出時の手続き（外出届出の活用等）
- (8) 喫煙について
- (9) ゴミ出しについて

6 その他

- (1) 施設見取り図
- (2) 周辺地図

非常災害時の相互の応援に関する規約

(目的)

第1条 この規約は、川崎市老人福祉施設事業協会（以下「本会」という。）の会員施設が被災した際、当該施設の要請に応じて、会員施設が協力して被災施設を応援することについて必要な事項を定め、もって非常災害時における会員施設の運営の継続及び利用者の安全の確保を図ることを目的とする。

(定義)

第2条 この規約において、次の各号に掲げる用語の意味は、それぞれ、当該各号に定めるところによる。

- (1) 非常災害 暴風、竜巻、豪雨、洪水、崖崩れ、高潮、地震、津波その他の異常な自然現象に起因する災害又は火災その他の人為的災害をいう。
- (2) 被災施設 非常災害により施設の運営を継続することが困難になった会員施設をいう。

(防災責任者)

第3条 会員施設は、相互の応援を円滑に行うため、防災及び非常災害に関する責任者（以下「防災責任者」という。）を置くものとする。

- 2 防災責任者は、防災及び非常災害に関する連絡調整及び情報共有に努めなければならない。

(防災組織)

第4条 会員施設は、別に定めるところにより、地域を単位とする防災組織として班を編成するものとする。

- 2 班には班長を1名、副長を1名以上置くものとする。
- 3 班長は、班を代表するとともに、班務を統括する。
- 4 副長は、班長を補佐し、班長に事故があるとき、又は班長が欠けたときは、その職務を代行する。
- 5 班長及び副長は、班を構成する会員施設の防災責任者の互選により選任する。
- 6 班長及び副長の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(相互応援)

第5条 会員施設は、被災施設から施設の運営を継続するために必要な人的、物的な支援、処遇が困難となった入居者の一時的な受入れなど、応援の要請を受けた場合は、可能な限りその要請に応えるよう努めるものとする。

(防災訓練)

第6条 会員施設は、別に定めるところにより、班内訓練、合同訓練その他の訓練を実施するものとする。

(その他)

第7条 この規約を施行するために必要な事項及びこの規約に定めのない事項は、理事会で決定する。

附 則

この規約は、令和〇年〇月〇日から施行する。

災害時の相互応援の流れ（老人分野）

本部（事業協会・市社協）						
川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区
◎班長	◎班長	◎班長	◎班長	◎班長	◎班長	◎班長
○副班長	○副班長	○副班長	○副班長	○副班長	○副班長	○副班長
・各施設	・各施設	・各施設	・各施設	・各施設	・各施設	・各施設

（相互応援の流れ）

発災

↓

各施設は情報共有システムにより状況報告・応援要請

↓

情報共有システムにより、川崎区 A 施設・麻生区 B 施設に甚大な被害が出ており、応援要請があることも判明

↓

応援要請に基づき、当該区の班長・副班長、本部が相談し、応援調整

↓

1－1 川崎区内の他施設は被害が少ないため、川崎区内で A 施設の応援可能

2－1 麻生区内の他施設にも被害が出ているため、麻生区内だけでの応援難しい隣接している宮前区、多摩区にも応援調整をお願いしたい

↓

2－2 麻生区のと請に基づき、宮前区、多摩区の班長・副班長、本部が相談し、応援調整

↓

2－3 麻生区、宮前区、多摩区により B 施設の応援可能

※応援調整を待たず駆けつける施設もあるかと思うが、それはまさに施設間同士の互助の活動であり、その活動を妨げるものではなく、組織的な応援を継続して行うための仕組みである

2 人材プロジェクト委員会

(1) 委員会等実施状況

第3回 / 11月17日(水) 14時～(オンラインとオフライン)

(2) 協議概要

①高校(キャリア教育担当)へのアプローチについて(報告)

日時: 10月21日(木) 10時～

会場: 明治安田生命ビル4階 小会議室

出席: 教育政策室 安斎陽子担当課長、指導主事 佐藤一輝氏、

荒川委員(ひらまの里)、平山副委員長(鷲ヶ峯)、山下所長(人材バンク)、白倉

<教育政策室より>

- ・小学校の総合的な学習の時間は、川崎市はほとんどの学校で福祉が選択されている。
 - ・中学校では職場体験で福祉施設に受け入れていただいている学校が多い。
 - ・高校は福祉施設とあまり関わる機会が無いのが現状。今後キャリア教育についての学びを深めたいと考えているため、令和4年度幸高校生徒(120名)のインターンシップ受け入れに協力していただけるとありがたい。
 - ・将来的には全ての市立高校でキャリア教育を受けられるような環境にしていきたいと考えている。
- 令和4年度の幸高校インターンシップの調整時、改めてご連絡いただける。

②ハローワーク川崎「福祉の仕事」説明会

日時: 令和4年1月28日(金) 13時30分～15時 実施予定(別紙参照)

<報告>

日時: 10月22日(金) 13時30分～15時

会場: ハローワーク川崎 6階大会議室

環境: ZOOMを使用

参加法人: 寿楽園、和楽会

参加施設: しゃんぐりら、生田広場

来場者: 19名/25名定員



③外国人介護人材説明会または情報交換会

12月から各施設へアンケート調査を行い、アンケート結果を基に説明会または情報交換会の実施を検討する。

④介護業界就職マッチングイベント（別添資料1参照）

経済労働局より、新型コロナウイルス感染症の影響等により離職した方や就職活動が困難な方の就業を支援するための、対象を特化した就業マッチングイベントの開催案内。

→現在、採用者・企業向けチラシを作成中とのこと。

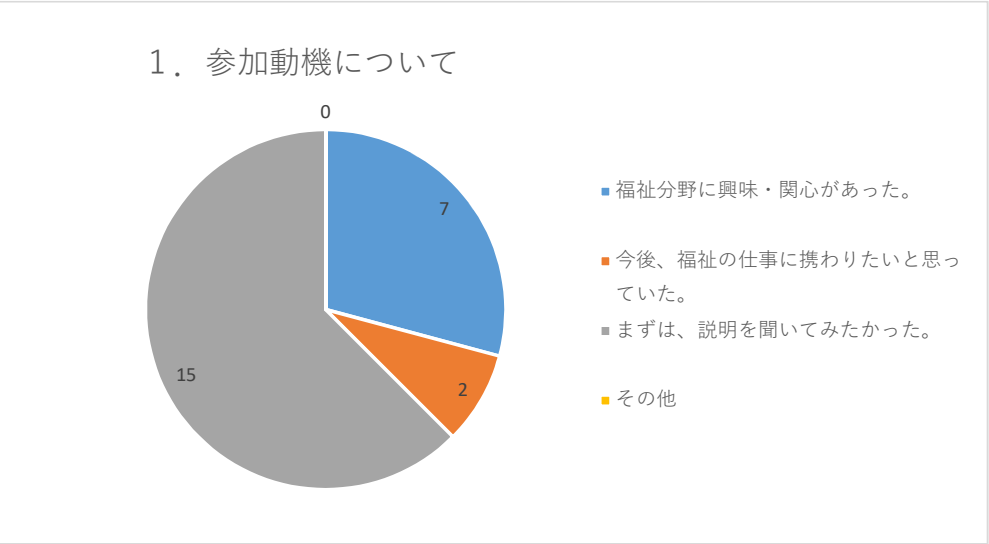
採用者・企業の参加申し込みは始まっているため、後日メールにて申込に関する情報をご案内します。

◎次回：第5回実行委員会 令和4年1月17日（月）14時～ オンライン

R3.10.11 「福祉の仕事」説明会 アンケート結果

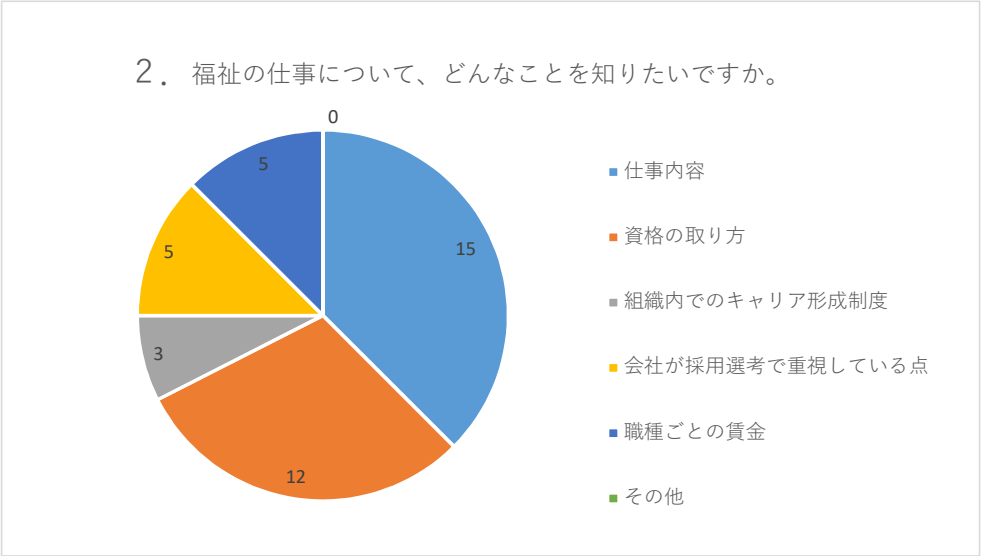
性別	人数
男性	3
女性	10
記載無し	6

年齢層	人数
20代	0
30代	2
40代	1
50代	10
60代	5
70代	1



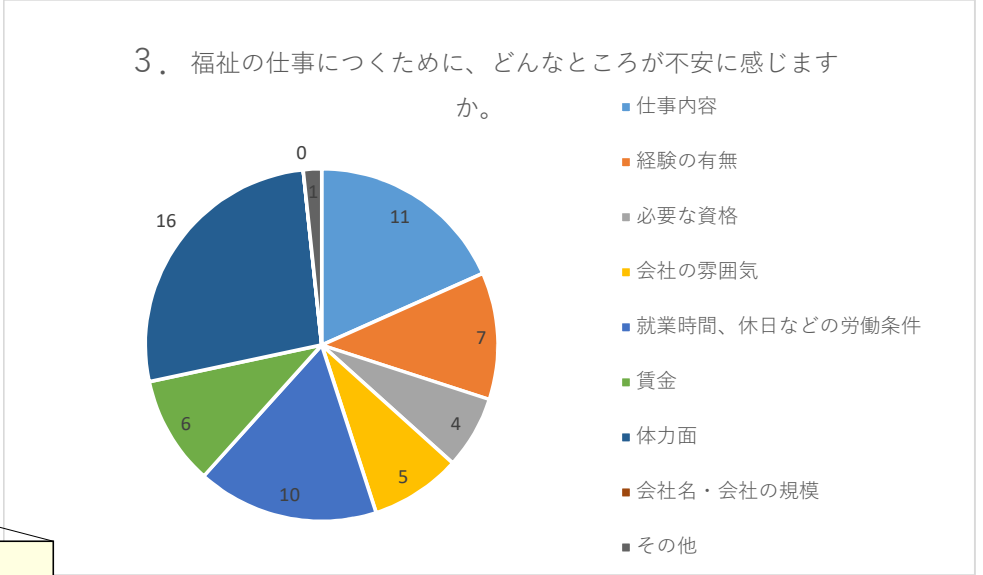
1. 参加動機について

質問内容	回答
福祉分野に興味・関心があった。	7
今後、福祉の仕事に携わりたいと思っていた。	2
まずは、説明を聞いてみたかった。	15
その他	0



2. 福祉の仕事について、どんなことを知りたいですか。

質問内容	回答
仕事内容	15
資格の取り方	12
組織内でのキャリア形成制度	3
会社が採用選考で重視している点	5
職種ごとの賃金	5
その他	0



3. 福祉の仕事につくために、どんなところが不安に感じますか。

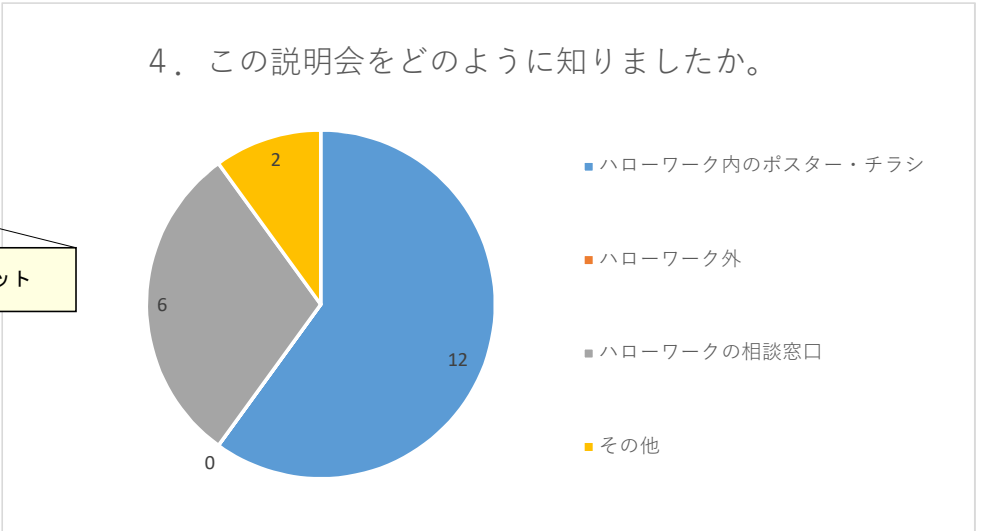
質問内容	回答
仕事内容	11
経験の有無	7
必要な資格	4
会社の雰囲気	5
就業時間、休日などの労働条件	10
賃金	6
体力面	16
会社名・会社の規模	0
その他	1

無記名 1 人間関係 1

4. この説明会をどのように知りましたか。

質問内容	回答
ハローワーク内のポスター・チラシ	12
ハローワーク外	0
ハローワークの相談窓口	6
その他	2

ハローワークインターネット



5. 今後このような説明会に期待しますか。

質問内容	回答
期待する。	19
期待しない。	0
どちらとも言えない。	0

6. そのほかになにかお気づきの点がございましたら、ご記入ください。

横浜で開催された介護セミナーより内容が濃くてとても良かったです。

有意義なセミナーでした。ただ資料が沢山ある場合はデスクがあった方が良かったと思います。

離職率ってどのくらいなのか？コロナ禍でパートや派遣さんは切られたりしたと聞きました。

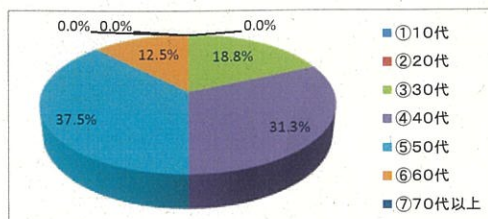
施設のピーアールみたいにみえました。できれば介護の現場をみせてほしかった。

画面がもう少し情報があれば見易かったと思います（大きな機器でしたので台は難しかったのでしょう）。開始5分前にVTRを流して頂きましたが、何かしら前振りがあると良かったと思いました。テストしているのかなーと思っていました（フル画面でもなかったので音の確認かと思っちゃいました。4つの事業所の方々がお話しくださったことも、とても参考になりました。皆さま方もお忙しい中でしたでしょうに、有難うございました。積極的に考えてみます。

「福祉の仕事」説明会参加者アンケート集計10月22日実施分

1 あなたのご年齢について教えてください。

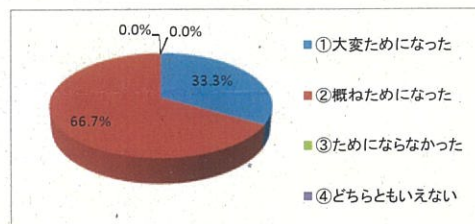
①10代	0
②20代	0
③30代	3
④40代	5
⑤50代	6
⑥60代	2
⑦70代以上	0



2 今回の「福祉の仕事」説明会に参加して、いかがでしたか。

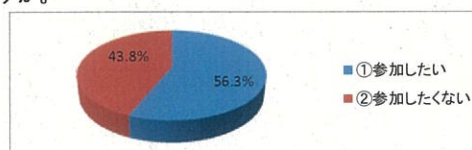
※未記入1名

①大変ためになった	5
②概ねためになった	10
③ためにならなかった	0
④どちらともいえない	0



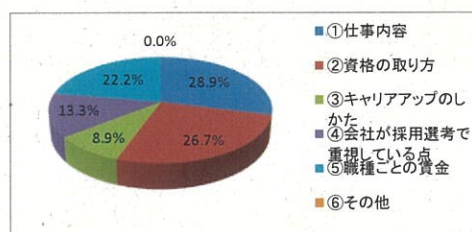
3 今後、ZOOMなどのオンライン説明会が開催された場合、参加したいと思いますか。

①参加したい	9
②参加したくない	7



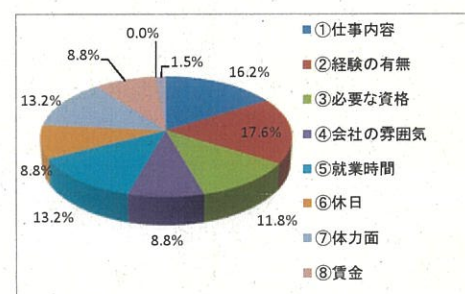
4 福祉の仕事について、どんなことが知りたいですか。(複数回答可)

①仕事内容	13
②資格の取り方	12
③キャリアアップのしかた	4
④会社が採用選考で重視している点	6
⑤職種ごとの賃金	10
⑥その他	0



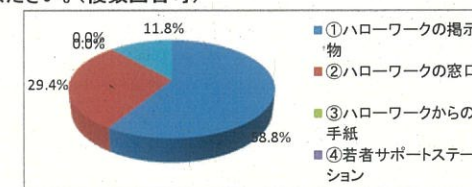
5 あなたが、福祉の仕事につくためには、どんなところに不安を感じますか。(複数回答可)

①仕事内容	11
②経験の有無	12
③必要な資格	8
④会社の雰囲気	6
⑤就業時間	9
⑥休日	6
⑦体力面	9
⑧賃金	6
⑨会社名・会社の規模	0
⑩その他	1



6 「福祉の仕事」説明会を知ったきっかけについて、該当するものに○を付けてください。(複数回答可)

①ハローワークの掲示物	10
②ハローワークの窓口	5
③ハローワークからの手紙	0
④若者サポートステーション	0
⑤その他	2



7 ご意見・ご感想などございましたら、ご記載ください。(自由回答)

「実際に施設で働かれている方の話を聞くことができ、資格がなくても働けると聞き安心しました。」「施設でのケアの実際」のお話もとても参考になりました。あたたかい施設長さんのいる職場で働ける方、入所される方は幸せだなと思います。賃金は満足されているとのことでしたが、やはり実際の求人を見るとこんな重要な仕事のわりには安すぎると感じます。」「福祉の仕事の現場は常に人手不足で重労働→心にゆとりがなくなる→ギスギスするというイメージを勝手に抱いておりましたが、必ずしもそうではないと今日参加して感じました。」「初めてこのようなセミナーに参加しました。介護の仕事の内容、無資格でも出来る仕事がある事、施設長のお話はとても響きました。高齢の家族がいるので「温かい心」とても大事なんだなと思いました。ありがとうございました。」「後ろのスタッフが講義中なのに常にうるさかったので気が散りました。」「本日はありがとうございました。現場の方のお話も聞けてとても勉強になりました。介護のお仕事に更に興味を持ちました。ありがとうございました。」

ハローワーク川崎「福祉の仕事」説明会における広報啓発活動（概要）

1 日時

令和4年1月28日（金）午後1時30分～午後3時（主催：ハローワーク川崎）

2 会場

ハローワーク川崎 6階 大会議室（川崎区南町1-7-2）

3 内容（求職者対象）

- ①川崎市社会福祉協議会（老人福祉施設協議会）について、
福祉の仕事・資格の案内 ※川崎市社会福祉協議会 施設・団体事業推進課
- ②施設でのケアの実際（25分）
- ③福祉の現場からの声（30～40分程度）
福祉職場について、仕事内容ややりがいについて説明
- ④市内社会福祉施設の求人情報の提供 ※川崎市社会福祉協議会福祉人材バンク
- ⑤川崎市介護人材マッチング事業について ※株式会社シグマスタッフ

4 依頼内容

上記③の企画でハローワーク「福祉の仕事」説明会に参加される求職者を対象に、
福祉の職場のことや仕事内容、やりがい等についてお話しただける職員の参加
※各施設・法人より、若手職員（概ね3年以内）や無資格・未経験から働き始めた職員にご参加いただければと思います。また、可能であれば施設の運営に携わる方にもご同席いただけますと幸いです。

※オンライン（ZOOM）での参加をお願いする場合があります。

（前回の様子）



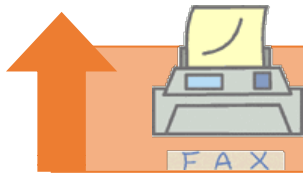
5 お問い合わせ

川崎市社会福祉協議会 福祉部 施設団体事業推進課 担当：白倉

〒211-0053 川崎市中原区上小田中6-22-5 川崎市総合福祉センター内

電話：044-739-8717 FAX：044-739-8737

メール：shisetsu-dantai@csw-kawasaki.or.jp



川崎市社協 福祉部 施設団体事業推進課 あて
FAX：044-739-8737

【1月7日（金）までにFAXまたはメールによりお申込みをお願いします。】



ハローワーク「福祉の仕事」説明会 参加申込書

日時：令和4年1月28日(金) 午後1時30分～午後3時

会場：ハローワーク川崎6階 大会議室

施設名 または 法人名	(記入者：)	
参加 希望日	※上記①②の内、参加可能な日を記入ください（複数回答可）	
参加 方法	オンライン（ZOOM）での参加は可能ですか？（○をおつけください） ※ZOOMでの参加をお願いする可能性があります はい ・ いいえ	
参加者	(氏名・ふりがな)	(職名)
	(氏名・ふりがな)	(職名)
連絡先	※当日連絡がつく連絡先をご記入ください。	
通信欄	※何かご不明な点等ございましたらご記入ください。	

※参加申込施設・法人あてには、改めてご連絡させていただきます。

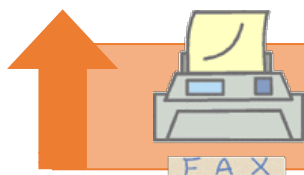
【申込・問合せ先】

社会福祉法人川崎市社会福祉協議会 福祉部 施設・団体事業推進課

電 話：044-739-8717 FAX：044-739-8737

メール：shisetsu-dantai@csw-kawasaki.or.jp

(1枚目)



川崎市社協 福祉部 施設団体事業推進課 あて
FAX：044-739-8737

【1月13日（木）までにインターネット上またはメールによりご回答ください。】

老人福祉施設協議会 人材プロジェクト委員会
外国人介護人材に関するアンケート 〆切：1/13（木）

老人福祉施設協議会 人材プロジェクト委員会では、新たな在留資格「特定技能」の創設等により今後増加が見込まれる外国人介護人材について、川崎市内の各施設での外国人介護人材の受け入れニーズ等について調査し、必要に応じて説明会または情報交換会の開催を検討しています。

つきましては、大変ご多忙のところ誠に恐縮ではございますが、今年度の研修会開催にあたり、アンケートに必要事項をご記入いただき、インターネット上またはメールにより 1月 13日（木）までにご回答くださいますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

アンケート回答 URL・QR コード

施設名

<https://forms.gle/RxNDzHWJPTSFFhqo6>



【提出・問合せ先】

社会福祉法人川崎市社会福祉協議会 福祉部 施設・団体事業推進課

電話：044-739-8717

FAX：044-739-8737

メール：shisetsu-dantai@cs-w-kawasaki.or.jp

(問 1) 外国人介護人材の受け入れについて

(問 1) 現在外国人介護人材を受け入れていますか。または、今後受け入れる予定はありますか。

- ☐ 既に受け入れている
- ☐ いつかは受け入れたいと考えている
- ☐ 今のところ受け入れる予定がない

(問 2) 外国人介護人材をテーマとした情報収集の機会について

外国人介護人材に関して、情報交換会や説明会があったら参加したいと思いますか。

- ☐ 参加したい
- ☐ 今のところ参加する必要性はない

※具体的に、情報交換したい内容がございましたら、ご記入ください。

(問 3) 外国人介護人材の受け入れにあたり知りたい情報

外国人介護人材の受け入れを検討するにあたり、事前に聞いておきたい内容はありますか。当てはまる項目に☑またはご記入をお願いいたします。 ※複数回答可

☐外国人介護人材受け入れに係る制度概要説明

☐川崎市内の外国人介護人材の受入れ事例

(受け入れてみてよかったこと、受け入れてからの課題等)

☐川崎市内の施設で就労している外国人からの話

(就労する前に不安だったこと、就労してみたのよかったこと・苦労していること等)

☐外国人介護人材を受け入れる際の準備(住まい、最初に教えたこと等)

☐外国人介護人材への手当

☐外国人介護人材を受け入れた後の利用者の反応・変化

☐外国人人材マッチング支援事業者について

☐その他(何かございましたら、ご記入ください)

(4枚目)

(問 4) その他、外国人介護人材に関すること

その他、説明会や情報交換会以外に必要なと思う取り組み等ございましたら、ご記入ください。

報告 安全対策担当者養成研修（安全対策体制加算対応）概要版

1 日時

10/18（月）～10/25（月）までの1週間

2 開催方法

事前収録したものをオンデマンド配信

3 研修内容

プログラム① …40分

『令和3年度介護報酬改定における安全対策体制加算等について』

講師：コンパッソ税理士法人 横浜青葉事務所 業務部 本部長 畠山安定 氏

プログラム② …60分

『介護事故の実態とリスクマネジメント』

講師：小長井・千木良・渡邊法律事務所 弁護士 千木良正 氏

プログラム③ …90分

『介護事故が発生した場合の対応や紛争予防策について』

身体拘束の適正化と虐待防止』

講師：介護・福祉系法律事務所おかげさま 弁護士 外岡潤 氏

4 受講者（申込者）

153名（172名） ※体調不良や施設内で受講職員の交代等もあり

5 再生回数

933回

（内訳）プログラム① 326回 プログラム② 230回

プログラム③ 178回 プログラム④ 199回

6 アンケート

（1）今回の研修会はいかがでしたか？

理解度				
とても理解できた 59	理解できた 83	普通 10	やや理解できない 1	理解できない 0
満足度				
大変満足した 60	満足した 82	普通 11	やや不満足 0	不満足 0

(2-1) プログラム①についてのご意見及びご感想をご記入ください。(一部抜粋)

- ・安全対策体制加算取得を行う上での安全対策担当者の実施する役割や加算要件等について理解をすることが出来た。指針やマニュアルを見直すきっかけになり、大変良い研修であった。
- ・今年の4月に特養の相談員になり特養の介護報酬に関してはまだ知識不足だったので、参考になる事が多かったです。
- ・本加算までのプロセス等を分科会の資料を用いて詳しく説明してもらえたので、今回の介護報酬改定の意図がよくわかりました。
- ・介護報酬改定で決められたことや収入を増やすためではなく、安全対策を平時から取り組んでいく重要性とそれを担当する職員の果たすべき責任を学べた。
- ・当加算においても外部研修が必須となっており、オンライン研修の重要性を感じました。講義の内容の中で、どこの施設においても内部での事故防止の研修を行っているが、外部研修へは行けていない現実はどこも同じであるなど、改めて実感しました。今後も今回のようなオンライン研修が1つのツールとして選択できれば、もっと多くの職員が参加できると感じました。

(2-2) プログラム②についてのご意見及びご感想をご記入ください。(一部抜粋)

- ・裁判事例で、デイサービスの車椅子用トイレでの転倒事故で利用者の自己決定をすべて受けいるのではなく、専門職としてリスクを先読みし、リスクがあることの説明と、納得してもらうことが重要であることが知れてよかった。
- ・プロとして防げる事故は未然に防ぐ義務がある。または小さな変化でも予兆と捉える意識が大切だと再認識させられた。
- ・事故に発生における「予見・回避」の考え方や過去の判例における過失割合における注意義務の必要性を再確認できた。より一層のリスク回避に向けた取り組み方を施設内で考え直すきっかけとなった。
- ・コンプライアンスを遂行しても必ずしも安全が保たれる訳ではなく、介護事故への判決も事例を参考にした判断となる。施設側の体制やリスクマネジメントも大切だが国が定める人員基準でのリスク回避は本当に厳しいと感じた。
- ・今まではリスク、リスクと頭では分かっていたが、具体的にどのようなリスクがあるかが分かったし、事例で自分の施設に置き換えることもできた。介護職員がしなければならない予見や回避義務は普段からの気配りや目配りで行ってはいいるが、いざ訴訟になったときに問われる重要なことだと再認識した。その為の証拠(記録)を今一度見直そうと思った。

(2-3) プログラム③についてのご意見及びご感想をご記入ください。

- ・ リスクマネジメントの大切や初動の対応が重要であることを再確認できた。また、精神論だけではなく、「なぜ事故が発生したか」と常に疑問をもつことの大切や事故発生直後の初動対応の重要性を再確認できた。
- ・ 謝罪したから施設側が悪いのではなく誠意を見せる事が大切。また事故を常に予見して行動する事で発生してしまった場合でも対応が取りやすくなる。このプログラムを聴くことで安全対策や予防策がどれほど必要なのか理解できました。
- ・ 何かあった際は速やかに家族に対して報告すること、常に先手を打って対応することが大きな事故の賠償にはつながらないことは改めて勉強になりました。日頃からの、施設を職員の身を守ることはとても大事な事だと思います。是々非々で対応すれば何も恐れることはないという言葉は安心しました。
- ・ 施設では身体拘束は原則として許されず、人員配置にも限界があり、人手不足で見守りが片手間になりがちなのは、介護現場の実状です。だからといって事故が起きていいわけでもないの、いかに発生した場合の対応や対策がどれだけ出来るかがポイントだと思いました。防げたはずの事故を一件でも減らし、同じ失敗は繰り返さないようにする事が大切です。また、日頃からご家族とのコミュニケーションを大切にして、信頼関係をきづき、何かあれば都度報告する事が大切だと改めて感じました。コロナ禍でなかなかご家族とも対話できない環境ではありますが、今だからこそ出来る事を見つけ、コロナ禍でも変わらず元気に生活している事を報告出来れば、喜びやより一層信頼関係を築けると感じました。
- ・ リスクマネジメントでは、事故はできる限り減らすことが大事ではあるが、ゼロにする、完璧にすることが目的ではないということがわかった。
事故防止を追求しすぎると、職員への負担が増し効果もあまり出ないと思った。
事故を起こした場合にはその後の入居者へのケア、家族への誠意を持った説明が大事だとわかった。
- ・ 記録の残し方、法令順守、優先順位を決めて対応を行うなど、普段の観察が必要である。7つのエピソードを読ませていただきます。
すべてのプログラムを全職員に周知したいため、出来たら配信期間を延ばしていただきと思います。
- ・ 現場の状況を把握され、現場の視点に立った内容だった。ご自身が自らの体験を生かしたものであったので、これならできる、やれそうと思える内容だった。量的に時間が少なかったように思った。

(3) 今回は施設のニーズが高い研修会を急遽開催させていただきました。

次回以降の研修会で取り上げたいテーマがございましたら、希望されるテーマ及び理由、施設での現状等をご記入ください。

・ **L I F Eに関する研修 ※多数**

- 導入経緯や骨子ではない、具体的な事例に関する研修を望む
- フィードバックの活用について
- 今ひとつ理解ができず、特に科学的介護推進加算のデータ提出及びフィードバックに関して、活用方法がよくわからないため。
- 科学的介護推進体制加算について確認も込めて再度研修を受けたいです
- PDCAサイクルの実践例等

・ **ハラスメント問題 ※多数**

- サービス利用者から職員が受けるハラスメント問題に対しての研修があればと思います。近年、権利を主張される利用者が増えてきていますが、介護保険上のサービス提供を超えた部分を強く主張される方が多く、ハラスメントではないかと感じられることがでてきているからです。
- 管理職向け、従業者向けの研修を希望します。
- ご利用者・家族からのハラスメントの解決方法について
- 介護現場におけるハラスメントの特徴や対策防止、事例など、具体的に研修が出来たらと思っています。
- ご家族との付き合い方（苦情対応だけではなく、イベントへの協力のお礼の言い方、入所者と折り合いが悪い家族との関わり方など）について

・ **リスクマネジメント ※多数**

- 特に大きな施設の課題でもあるため、予見できることへの対応策等の幅が広がるような研修があればいいと思います。ありがとうございました。
- 介護事故の防止に向けた指示や、事故発生時の対応について、職員全員に情報の共有が出来ていない部分もあるため
- 起こりやすいヒヤリハット対策、ヒヤリハットの取り組み事例等の研修
- 新人職員向けのリスクマネジメント、最近の介護事故の裁判事例や裁判の傾向

・ **身体拘束の研修 ※多数**

- 介護職員向けに事例をもとにした身体拘束及び虐待の研修
- 身体拘束、虐待防止について、他施設での事例等を学びたい。
- 特養における身体拘束の実態について
- 外国人の職員が増えているので、日本人職員はもちろん外国人にも伝わりやすい身体拘束やリスクマネジメントの研修があったらいいかと思っています。

・ **人権擁護、権利擁護 ※多数**

- 毎年人権擁護の施設内研修を行っているが、テーマが大きく毎年基礎的な内容のみに留まっている。深く掘り下げたいが上手く研修としてまとめ上げられていない。このコロナ禍で施設内へ第三者が入ってくる事が激減し閉ざされた施設になってしまっている。改めて人権について考え、職員1人ひとりが人権・尊厳を意識し、より良い介護の提供ができればと思います。
またオンラインとする事で特に外部研修に行く事が難しい介護職員の方も広く参加のできる研修スタイルを希望します。

・介護の基本的知識、介助方法 ※多数

- なかなか外部研修を受講できない中、介護方法が施設独自になってきている部分が見られる。食事介助など直接ご利用者の健康に関わってくる介護の基本的知識、介助方法を中堅職員以上が振り返り再確認の行える研修を開催して頂きたい。
- コロナ禍の中で規範やモラルの低下が現場で著しいので、何かそのようなことを、改善できる取り組みなどを希望します。
- 介助方法についての研修
- 介護現場における安全安心の利用者とのコミュニケーション
- 利用者様の尊厳を守り、信頼関係を築いたり、マナー等について
- ビジネスマナーではない、対高齢者（認知症状のある）に特化した接遇マナー研修
- 入居者の重度化が進み、褥瘡や拘縮などのリスクが高くなっている今、改めて身体にあった適切なポジショニングについて学びたい。
者と職員双方楽になればと思っております。
- 職員同士でもやはり腰痛やひざの痛み等も出てきている為、少しでも軽減し利用

・看取り ※多数

- 施設で看取り対応を開始する段階の為、知識、対応、方法等や他施設の看取り対応方法等知りたい。
- これから施設での看取り対応も増えていくと思われ、看取りについての研修会があれば、参加したいと思います。
- 今年度より看取りの取り組みを始めた。他施設ではどのようにしているか、本当に求められているのは何か知りたい。
- 看取りの事例、エンジェルケア、グリーフケアの研修。看取りの経験値を高めるため。

・ターミナルケア ※多数

- 新人職員（未経験）が沢山いるため、まだ経験している職員が少なく、経験者でもまだまだ課題が多い内容だなと思ったからです。

・救急隊員や医療との連携について ※多数

- 特に延命の確認方法。現在も一応、延命の確認をしているが、救急隊員に伝えた所、いつ確認したか聞かれ、日にちがたっていると今はどう？と聞かれます。ご家族に電話連絡がすぐにとれる場合はいいが連絡とれない時に不安が残ります。また救急搬送後、病院の医者からこのような患者（フルで延命希望された方）を搬送されても困ると言われた事があり、困りました。その時は点滴をして戻すと言われましたが、うちの特養では医療行為が出来ません。その旨を説明しましたが、あまり理解してもらえず、結局は救急搬送翌日に転院されてます。
- 「救搬時のスムーズな対応」等について行っていただくと有り難いです。

・CPRとDNR

- 迷わず対応できた事例など、取り上げて欲しい。

・今後の施設運営について ※多数

- 施設内での介護業務と記録業務の両立の難しさ、職場でのスタッフ間トラブルや離職問題などについて改善策や予防、今後の施設形態の在り方などについて知りたいです。
ここ数年の施設での離職問題やスタッフの業務負担、トラブルなどが絶えない。

・職員のメンタル面のサポート

- 人員不足や過酷な労働によって職員が疲弊しているのが気になります。どうしたら職員を身体的・精神的にサポートできますか。

・チームで働くという事 ※多数

- シフト制で働いている中で人が揃っていない状態も多くあり、情報の共有や支援の方向性の統一が進まない場合も多くみられる。一丸となって支援をするという事のきっかけになる内容があればお願いしたいです。
- 職場の雰囲気作りについて何かアドバイスがあれば知りたい。職員間の関係性が築けていないと思う場面が多いため。

・記録の書き方や情報共有について ※多数

- 施設では様々な種類の記録物がありますが、専門用語が多いため外国の職員に教えるのが大変です。
特に夜勤を見据えている場合には記録がネックになってしまいます。
- Aは知っているがBは知らない、CはDから聞いて知っている、等、情報共有の方法がバラバラ。書面等で情報共有を図るが、伝え忘れ等が多い。

・加算に関する資格等の研修 ※多数

- 新規加算もそうですが、既存の加算についても、改めて説明や行政レベルでの現状の解説も含めて、勉強する機会があると施設の理解も深まります。
- 通所サービスの入浴介助加算Ⅱの算定に必要な個別入浴計画の具体例やポイントの研修

・ユニットケア

- 24時間シートの作成から実行までの流れや、8時間夜勤を導入する時に注意すること等、今の人員配置で可能か等の研修があれば参加したいです。

・災害 ※多数

- 地域との防災訓練について、コロナ禍もあり悩んでいます。また地域の方へのアプローチもただ義務だからではご協力もむずかしい。国として、市として、災害時は1次避難や2次避難の活用を示すなど、川崎市のとりくみを学べると地域アプローチしやすい。
- 防災対策について
- 今回の介護報酬改定で新設されたBCPの訓練について

・人材 多数

- 主任として、副主任としてどうあるべきか。リーダー格としてどうあるべきか。
リーダーの人材育成力を高めていけるような研修意識を改めるためにも、上層部に向けた研修があるといいと思います。
- 人材育成体制のための研修を取り上げていただきたいです。
- 慢性的に人で不足です。職員が体調不良で大量に休んだ場合の対応について、コンプライアンスを知りたい。
- マネジメント、リーダーシップ
- 当施設では、各ユニットにリーダーを配置しているが、職員の指導、育成がまだまだ上手くできていない状況がある。リーダーの人材育成力を向上させる研修を希望します。
- 介護未経験者への指導、教育の仕方

- ・ 認知症の方とのレクリエーション、コミュニケーション（困難事例や成功事例等） ※多数
- ・ 認知症基礎研修や認知症の実践者・リーダー研修等 ※多数
- ・ 新型コロナウイルス等の感染症対応について ※多数
- ・ アンガーマネジメント（利用者・介護者双方の視点）
- ・ トランス方法
- ・ 褥瘡対策について
- ・ 職員の業務負担のアイデア
- ・ 栄養マネジメント
- ・ 介護におけるICT活用・導入事例など
- ・ 身元引受人のいない方の入所について
- ・ 苦情処理について
- ・ 福祉用具について

令和3年度施設部会（第3回）について（概要）

日 時：令和3年11月 9日（火）午前9時30～11時

会 場：エポック中原6階研修室・オンライン

参加者：各種別協議会正副会長等

（老人）磯野会長、藤田副会長、白井副会長

1 施設部会副部会長の選任について

役 職	現	前
部 会 長	奥村 尚三 (保育／すこやか高津保育園)	
副部会長	磯野 利男 (老人／すみよし)	
副部会長	岡部 健 (障害／桜の風)	鈴木 寛 (児童・母子／新日本学園)

2 施設部会事業について

(1) 施設部会研修会について

→ 日時：令和4年 2月22日（火）午後2時～

内容：前半 （30分）災害時情報共有システムについて
(健康福祉局・こども未来局)後半①（60分）災害時を共に乗り越えていくために（講話）
講師：園崎秀治 氏（オフィス園崎）

後半②（30分） 近隣施設との情報交換 ※各区ごと

(2) 社会福祉施設の出張講座について

→ 社会福祉施設の「地域における公益的な取組」として、施設の持つ専門性やノウハウを活用し、各種研修事業への施設部会（社会福祉施設）が講師可能なメニューを他の部会等を通じて提示する。

○相談の流れ例 ※講座実施の3ヶ月前に相談依頼（講師依頼書提出）

①地域の方から相談

②施設・団体事業推進課（川崎市社協）※区社協に入る場合もある

③各協議会内で講師施設の選定

④地域の方と講師のマッチング・打合せ

⑤講座開催

※その他

出張講座を行う際の費用について

講師謝礼 ⇒ 無料

資料印刷代等 ⇒ 依頼する側の実費負担

会場代 ⇒ 依頼する側の実費負担

⇒ 各協議会でパンフレット内容確認（1月末を目安）

【パンフレットで提示しているメニュー例】

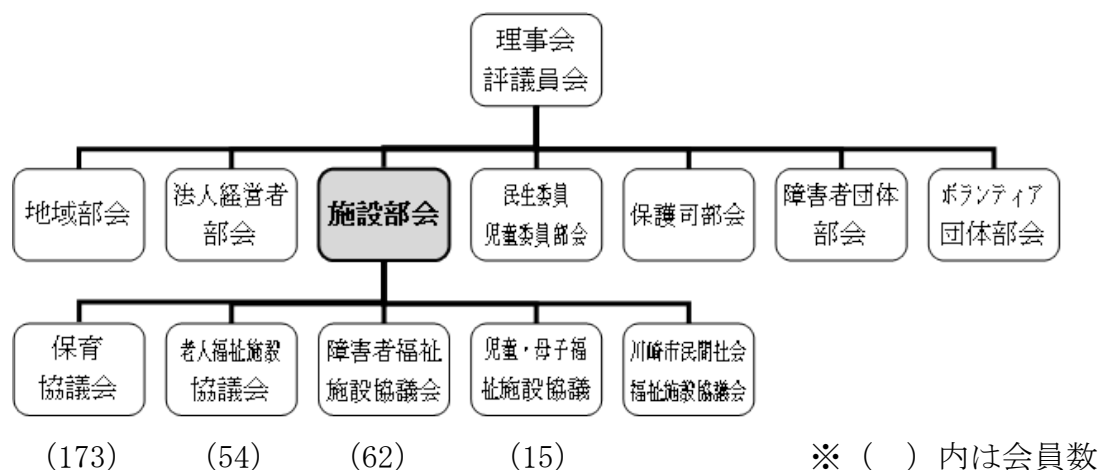
- 老人福祉施設について
- 地域包括支援センターについて
- 介護保険制度について
- 介護技術等のアドバイスについて
- 介護予防体操や口腔ケア等について
- 認知症（認知症サポーター）について
- 地域での見守り活動について
- 災害時の高齢者への配慮等について

※参考資料

全国社会福祉協議会

- ・「社協と社会福祉法人・福祉施設の連携・協働推進方策」概要
- ・「社協と社会福祉法人・福祉施設の連携・協働推進方策～包括的な支援体制の構築と『連携・協働の場』としての社協の役割発揮に向けて」

（参考）社会福祉法人川崎市社会福祉協議会 施設部会 組織図



令和2年7月31日
 ともに生きる豊かな地域社会の実現に向けた共同宣言
 ～社協と社会福祉法人のさらなる連携・協働へ～

社会福祉法人 全国社会福祉協議会
 地域福祉推進委員会 委員長 川 村 裕
 全国社会福祉法人経営者協議会 会 長 磯 彰 格

「ともに生きる豊かな地域社会」の実現に向けて、私たち社会福祉協議会と社会福祉法人・福祉施設は連携・協働し、地域のネットワークを広げながら持続可能な地域づくりと地域生活課題の解決を目指し、以下、ともに実行していくことを宣言します。

- 一 私たちは、都道府県・指定都市圏域、市区町村圏域それぞれにおいて、地域住民や多様な福祉組織・関係者との「連携・協働の場」の活性化をともに進めます。
- 一 私たちは、地域住民や多様な福祉組織・関係者、行政等とのネットワーク化を図りながら、地域生活課題の発見と情報共有をともに進めます。
- 一 私たちは地域における包括的・重層的な支援体制づくりを主導し、多機関協働と多職種連携のもとに、地域生活課題の解決に向けた多様な実践や事業・活動の開発・展開を進めます。

【問合せ先】

社会福祉法人川崎市社会福祉協議会 施設部会（事務局）

住 所：〒211-0053

川崎市中区上小田中 6-22-5 川崎市総合福祉センター6階

電 話：044-739-8717 F A X：044-739-8737

メール：shisetsu-dantai@cs-w-kawasaki.or.jp

社会福祉施設の 出張講座

無料

社会福祉法人川崎市社会福祉協議会施設部会では、令和2年7月に出された「ともに生きる豊かな地域社会の実現に向けた共同宣言～社協と社会福祉法人のさらなる連携・協働へ～」（裏面参照）を具体的に推進するため、市内社会福祉施設による、地域に向けた出張講座を行います。（オンライン対応可能）

【ご依頼の流れ】

- ①パンフレット（中面）を参考に講座内容を検討
- ②施設・団体事業推進課（川崎市社協）へ連絡 ※裏面に問合せ先
- ③依頼内容にあわせて講師施設の選定
- ④依頼者の方と講師施設のマッチング・打合せ
- ⑤講座開催

※その他、出張講座を行う際の費用

資料印刷代や会場代等については、依頼者様の実費負担をお願いします。

保育関係

- 保育園について
- 地域子育て支援センター
- 食育、離乳食、アレルギー等について
- 手遊びや親子でふれあい遊びについて
- 絵本や紙芝居等の読み聞かせについて
- 子ども達の健康について
- 子育てについて

等々

障害・救護関係

- 障害者福祉施設について
- 救護施設について
- 障害者相談支援センターについて
- 「障害」について
- 地域での見守り活動について
- 障害者の生活相談、余暇支援について
- 災害時の障害者への配慮等について

等々

老人関係

- 老人福祉施設について
- 地域包括支援センターについて
- 介護保険制度について
- 介護技術等のアドバイスについて
- 介護予防体操や口腔ケア等について
- 認知症（認知症サポーター）について
- 地域での見守り活動について
- 災害時の高齢者への配慮等について

等々

児童・母子関係

- 児童養護施設について
- 乳児院について
- 母子生活支援施設について
- 児童心理治療施設について
- 療育センターについて
- 児童家庭支援センターについて
- 里親支援について
- 子育てや社会的養育について
- 地域での見守り活動について
- 虐待防止やオレンジリボン運動について

等々

その他、上記に該当しないテーマや複合的なテーマがございましたら、お気軽にお問い合わせください。

社協と社会福祉法人・福祉施設の連携・協働推進方策

～包括的な支援体制の構築と「連携・協働の場」としての社協の役割発揮に向けて

令和3年6月 社会福祉法人全国社会福祉協議会 地域福祉推進委員会

地域福祉推進委員会

(市区町村社協、都道府県・指定
都市社協)

ともに生きる豊かな地域社会の
実現に向けた共同宣言

令和2年7月31日

全国社会福祉法人
経営者協議会

地域社会を取り巻く環境変化と対応の必要性

- ①コロナ禍によるニーズの拡大・顕在化
- ②地域生活課題の複雑化・複合化と社協の役割
- ③包括的な支援体制の構築に向けた連携・協働



連携・協働の目的

- ①制度の縦割りを超えて包括的な支援を実現する
- ②災害に強い地域づくり
- ③福祉教育、福祉人材の育成
- ④社協職員と社会福祉法人・福祉施設職員の学び合い

推進方策

①

市区町村域や日常生活圏域に
連携・協働の場をつくる

推進方策

②

地域生活課題の発見と
情報共有を進める

推進方策

③

地域生活課題の解決に向けた
具体的な事業・活動を実施する

アクション

- 市区町村域での社会福祉法人・福祉施設の連携・協働の場として、連絡会等を組織する。
- 地区社協や自治会・町内会、民生委員・児童委員等と社会福祉法人・福祉施設がつながり、より身近な地域での連携・協働を進める。
- 各参加法人が、日頃の事業・活動を通じて把握した地域生活課題や自分の組織だけでは対応できない課題を連絡会等で共有する。
- 出張相談窓口を設けたり、地区社協や自治会・町内会の集まり、サロン等の地域福祉活動の場、学校等に積極的にアウトリーチして地域生活課題の発見に努める。
- 連携・協働の場で共有された地域生活課題を踏まえ、地域のニーズに応じた具体的な事業・活動を実施する。
- 社会福祉法人・福祉施設が持つ専門性や経験、社協が持つ地域との幅広いネットワーク等、それぞれの強みを生かす。